

提出書類③「感染リスク・感染予防対策に関する指針」

平素より東京大学運動会フィールドホッケー部の活動におきまして、多大なるご支援とご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

緊急事態宣言解除から1ヶ月ほどが経過し、新しい生活様式での生活が定着しつつあります。つきましては、課外活動を感染防止策を徹底した上で再開させていただきたく、下記に弊部が実施いたします感染症予防策を記しましたのでご確認賜りますようお願い申し上げます。

1) 活動内容、競技特性等について.....	1
①前提となる弊部の活動内容、及び競技特性について.....	1
②感染症対策策定にあたり参考としたガイドラインについて.....	3
2) 感染症対策.....	4
①『東京大学運動会新型コロナウィルス感染予防体制(案 20200621 改訂版)』	4
②東京大学運動会男子フィールドホッケー部での具体的な感染症対策について	4
3) 練習試合・大会等における感染症対策について.....	8
①練習試合の実施について.....	9
②公式戦への参加について.....	9
4) 活動再開決定後の流れについて.....	9
5) 活動ガイドラインの修正.....	10
6) 感染症対策の実施の確認.....	10

1)活動内容、競技特性等について

弊部における活動内容、及び参考とした他団体のガイドラインの詳細を以下に示します。

①前提となる弊部の活動内容、及び競技特性について

弊部の活動内容の詳細、及び競技種目であるフィールドホッケーの特徴については以下の通りです。

(ア)男子フィールドホッケー部の通常の活動形態

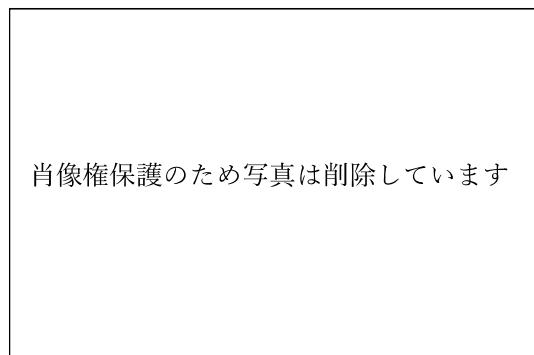
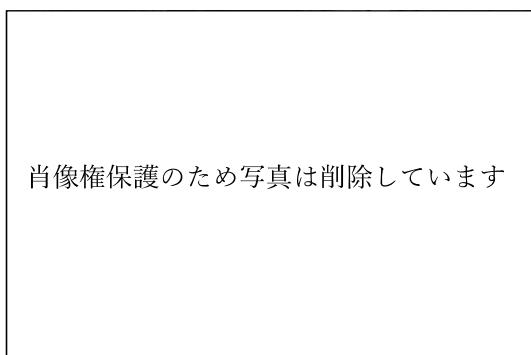
- 場所：東京大学駒場第二グラウンド
- 時間帯：火水金…17:30~21:00 土日…週により変動
- 部員：プレイヤー(競技参加者)37人 スタッフ(競技参加者ではない)5人
- 活動内容：屋外でのフィールドホッケー (1-1④参照)
- 監督：普段の練習には基本的には参加していない。月に数回参加

(イ)感染症の観点からみたフィールドホッケーの競技特性

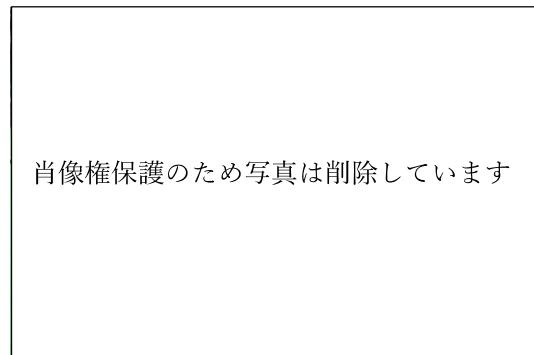
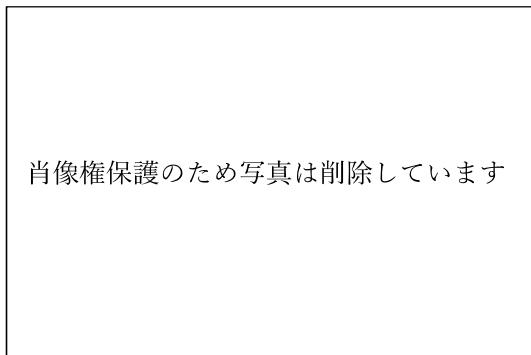
- 91 m × 55 m の屋外で試合は 11 対 11 で行われる競技であり、活動時の人口密度が低い。
- 他競技と比べた身体的接触の少なさ
- 個人のスティックを使うことによる道具を介した感染リスクの低さ

フィールドホッケーという競技は、広いフィールドに対して人口密度が低く、加えて屋外のスポーツであることや、スティックの使用によって身体的接触が他競技と比べ軽減されること、スティックを使用するのでボールを介した感染の危険性が低いことなどから、特性上感染に対する安全性が比較的高いと考えられます。

試合風景



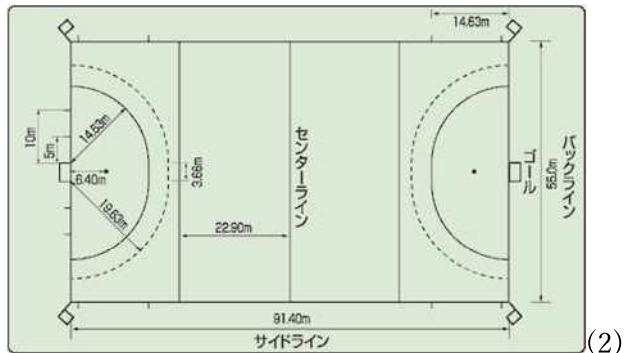
練習風景



グラウンド



(1)



(2)

(1)<https://utf.u-tokyo.ac.jp/project/pjt14> より引用。

(2)<https://tsukuba-field-hockey.jimdofree.com/>

<https://tsukuba-field-hockey.jimdofree.com/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0/%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%89%E3%83%9B%E3%83%83%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%81%A8%E3%81%AF/> より引用。

②感染症対策策定にあたり参考としたガイドラインについて

本感染症対策の策定にあたり、以下の資料を参考としております。

(ア) 『GUIDELINES :Safely Returning to Hockey view of the COVID-19 pandemic(19 MAY 2020)』
5/19 に、国際ホッケー協会(FIH)より、『GUIDELINES :Safely Returning to Hockey view of the COVID-19 pandemic(19 MAY 2020)』が発表された。同資料内における「地域レベルのホッケーの練習再開指針」に基づいた主な留意事項を下記に示します。

(PLANNING FOR THE RETURN TO TRAINING GUIDELINES *練習再開にあたりホッケー競技の特性を含め留意すべき対策 参照)

- 国や自治体のガイドラインに従う。
- できる限り公共交通機関を避け、徒歩や自転車、車での移動を心がける。
- 練習前の移動時間は短くする。
- グラウンドの出入り口を指定する
- ピッチでのプレーヤー間の距離は 1.5m 開ける。
- 手でボールをタッチしない。
- ハイタッチは禁止。
- 練習前後に手洗いを励行する。
- マウスガードは手で触れず、ピッチで唾や痰も吐かない。

- マイボトルのみ使用する。
- スティックやすね当て、ゴールキーパー用具は自分自身のものを利用する。道具の貸し借りは基本禁止。
- 練習後は繁華街等人の多い場所へ寄り道せず、直接家に帰る。

以下の URLにおいて、該当資料の詳細が記載されております。

- http://fih.ch/media/13350104/fih_safetyguidelines_covid19_190520-02-compressed.pdf

(イ)JHA(日本ホッケー協会)による『ホッケー競技活動再開についての留意点』

指導者、チームスタッフの留意点、競技者自身の留意点などが示された、日本ホッケー協会による再開に向けたガイドラインです。以下の URLにおいて、該当資料の詳細が記載されております。

- https://data.hockey.or.jp/2020/jha/JHA_COVID-19-PTR_20200629.pdf?180392021

2) 感染症対策

①『東京大学運動会新型コロナウィルス感染予防体制(案 20200621 改訂版)』

弊部は『東京大学運動会新型コロナウィルス感染予防体制(案 20200621 改訂版)』を厳守した上で活動再開します。以下は「3. 活動時の感染予防対策」の抜粋です。

- 各運動部は、活動参加者に、体調記録の提出と行動記録の保管を義務付ける。
- 各運動部の COVID-19 管理者は、活動参加者の体調記録を確認し、活動参加を認め、活動参加者の体調記録を感染症対策委員会に提出する。
- 各運動部の COVID-19 管理者は、感染が疑われる症状を発症した者や感染者・濃厚接触者と濃厚接触のあった者の活動参加を禁止する。
- 各運動部の COVID-19 管理者は、活動参加者に活動時の感染予防対策の履行状況を確認し、徹底させる。

②東京大学運動会男子フィールドホッケー部での具体的な感染症対策について

『東京大学運動会新型コロナウィルス感染予防体制(案 20200621 改訂版)』に加えて弊部で実施する具体的な感染症対策は以下の通りです。

活動時には以下の対策を講じて活動します。「練習前」、「練習中」、「練習後」、「練習以外」の4つに分けております。

(ア)練習前

- 『東京大学運動会新型コロナウィルス感染予防体制(案 20200621 改訂版)』に基づき、検温を実施、COVID-19 管理者は、活動参加者の体調記録を確認し、感染症対策委員会に提出する(『東京大学運動会新型コロナウィルス感染予防体制(案 20200621 改訂版)』にも明記)。
- 検温は毎日同じタイミング(朝夕の 2 回)実施し、異常が無いか確認する。以下に該当するものは活動への参加を禁止し、平熱に戻り安定するまで自宅療養又は受診を要請する。
 - 活動当日の朝の体温が 37.5°Cを超えている
 - 活動前日の夜検温した際に 37.5°Cを超えていた
 - 37°C以上又は平素の体温より高熱な状態が続いて 3 日目である
- 各自駒場キャンパスにおいては、極力部活外の学生との接触を避けるため、図 1 の所定のルートのみを使用する(下図参照)。なお、正門からのルートと西門からのルートを記したが、どちらかに限定する。西門ルートは駒場東大前駅の出口を学内の人との接触を正門からのルートより避けられると思われるが、正門の方が出入りの管理は容易。どちらのルートを使うかは大学の指示に従う。
- 最上級生は開始 30 分前にきて、グラウンドの鍵を開け、水飲み場にハンドソープ、アルコールを準備。
- グループごとにグラウンド到着の時間帯をずらす。スタッフ及び 4 年は開始 30 分前、2 年生は 20 分前、3 年生は 10 分前(1 年生入部後は別途検討)。
- 部員には熱中症などには気をつけながらのマスクの着用を徹底させる。
- 徒歩や自転車で通える部員には公共交通機関を使わないことを推奨。
- 着替えは原則各自自宅で済ませておく。^{*1}
- 到着後は水飲み場で 30 秒間の手洗い及びアルコール消毒をすることを徹底させる。その際、水飲み場には手洗いを 30 秒間行うよう指示する掲示を行う。
- 部員にはハンカチを持参させる。
- お手洗いはなるべく家で済ませ、練習前はテニスコート横のトイレのみを使用する。
- 水飲み場では手洗いのみ許可する。水を飲むことは認めない。

*1) やむを得ない理由により現地で着替えを行う場合、男性部員は屋外でのみ各人十分な距離をとった上での着替えを認める。スタッフは学年ごと 1 人ずつ順番で更衣室を利用する。やむを得ない理由とは、アルバイトや就職活動・学業の関係で練習着で家を出て活動場所に到着することが不可能な場合などが挙げられる。



図1 駒場キャンパスにおける練習時の部員の使う、駒場東大前駅からグラウンドへのルート(青線)
 が駒場東大前西口から西門を通るルート、
 赤線は東口から正門を通りルートどちらか一方に限定)

図は <https://www.c.u-tokyo.ac.jp/info/about/visitors/maps-directions/campusmap.html>
 より引用

(イ)練習中

- 練習の内容、参加人数などに関しては、以下の段階的な活動再開に準拠する。弊部は駒場での活動が主体となるため、駒場のステージに対応して以下のように定めた。なおこの指針は大学や運動会と協議のうえ、一部変更しての活動再開も検討する。

駒場キャンパスにおけるステージ	ステージオレンジ	ステージイエロー			ステージグリーン
フェーズ*1	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	フェーズ4	フェーズ5
練習参加人数	0人	15人以下	30名以内	40名以内	制限なし
練習時間	0	2時間以内(1グループあたり)	3時間以内(1グループあたり)	4時間以内(1グループあたり)	制限なし
練習内容	自宅などで自主練	密接を伴わない(2m 厳守)	競技をする上での接触は認め る。*2 練習外では距離をと る。		制限なし
練習試合について	禁止	禁止	大学、運動会に申請し許可を得 た上で大学、運動会、ホッケー 部が定めたガイドラインのもと 実施		制限なし
公式戦への参加	禁止	原則禁止(必要に応じて大 学、運動会に相談)	大学、運動会に申請し、許可を得 た上で、大会実行委員の感染 症対策を遵守して参加		通常通り

表1 提出書類②活動再開・拡大計画書

*1) フェーズの移行に関しては1週間ごとに情勢を判断し、変更の場合、大学、運動会に申請した上で許可をいただき、移行します。

*2) 別途提出した『新型コロナウイルス 感染防止と課外活動実施を両立するための活動再開要望、及び活動ガイドライン』1-1④の競技特性にも書きましたが、フィールドホッケーは過度な接触はないスポーツであり、スティックを介绍了競技のためこの措置を取りました。

- 練習の最初と最後の集合の際は一人一人の間にソーシャルディスタンスを確保する。
- スタッフや審判は笛を使わず、電子ホイッスルを用いる。
- 飲み物は各部員が持参し、容器に自分の名前を書いて取り違えのないようにする。
- 道具の貸し借りは禁止とする。
- ボールは素手で触らず、ボールサーバーやボール拾いの際には軍手もしくはビニル手袋を使用し、練習終了後は洗濯または廃棄する。それ以外はスティックでのみ触る。
- 怪我防止のためのマウスピースは手洗いの直後に装着。
- スタッフは熱中症に十分気をつけ、マスク及びゴム手袋または軍手を着用する。
- ゴールの移動など、共用の道具を直接触れた場合、触れた箇所をアルコールで消毒する
- ビブスについては、各自自分専用のものを用意してそれを着用する。毎回持ち帰り、洗濯する。
- 病人、怪我人が出た際は添付資料の『活動中の体調不良者対応マニュアル』に準拠して対応する。

(ウ)練習後

- 着替えの前に手洗いを徹底
- 着替えはソーシャルディスタンスを確保して時間差をつけて行う。
- 最上級生は更衣室付近で、更衣室利用者が1人になっているか、更衣室が空くまで待機するものが密になっていないかを管理する。
- スタッフは練習で使った道具を軍手もしくはゴム手袋をして消毒する。
- 1日ごとに最高学年の4年生から当番を出してチェックをする。業務は以下の通り。
 - 部員の更衣時に密になっていないかなどを確認
 - 最後にグラウンドを出て、鍵をアルコール除菌
 - 部員のグラウンドからの帰宅を確認したら、業務終了を主将主務、COVID-19 管理者に報告

(エ)練習以外の対策

- 日常生活で感染症対策として意識すべきこと(「夜の街」への外出自粛(7/2の小池都知事の発言を受けて)、手洗いうがい、練習前後の不要不急の外出自粛)を、チェックリスト化し部員

に周知(添付資料『日常生活における感染予防チェックリスト』参照)。

- 運動会所属部活を複数兼部している者は、1つの団体の練習のみ参加を認める。該当者は所属する部活の COVID-19 責任者にどの部活の練習に参加するかを報告する。該当者の体調管理の責任は練習に参加する部活が負う。
- サークルと兼部している者は、対面でのサークル活動への参加・部活への参加のいずれか一方を選択する。ただし、対面しない形でのサークル活動との両立は認める。
- ミーティングは全てオンラインで実施する。
- 新歓活動に関しては大学、運動会、オリエンテーション委員会の指示に従って進めるが、当面の間は体験練習会などは実施しない。
- 部員間での外食は自粛するよう周知。
- 感染が多く報告されている繁華街での外食等を禁止させる。
- コンパなどは当面の間禁止。オンラインでは可。
- 部員向けに、遵守してもらいたいことをまとめたリストを作成し、ルールの完璧な理解を促す。

3) 練習試合・大会等における感染症対策について

3月以来の活動制限・活動停止により実践的な試合形式の練習機会が著しく減少している状況の中、8月以降の諸大会で健闘し戦績を収めるため、十分な感染症対策のもと練習試合の実施と「A,活動再開希望」で記した希望大会への参加を強く希望いたします。

なお、練習試合の実施および公式戦は、提出書類②活動再開・拡大計画書に基づき、練習試合はフェーズ3以降、公式戦に関してはフェーズ3以降だが状況に応じてフェーズ2でも大学、運動会に参加要請をする場合も考えられます。

以下、大会への参加・練習試合の実施をする場合の対策を示します。

①練習試合の実施について

大学、運動会の許可を得て練習試合を実施する際は、以下の感染症対策を徹底して行う。

(ア)外部での実施

- 検温の状況を相手校と共有する。
- 基本的には実施場所の感染対策基準及びIIに記した東大ガイドラインに従う。
- ハンドソープやアルコール消毒は持参し、手洗い・消毒を徹底する。
- 雑談など試合時以外での相手校との接触は避ける。
- 握手やハイタッチは禁止とする。

(イ)駒場での実施

- 相手校にも検温を実施してもらい、結果を報告してもらう。
- 相手校にもIIに記した東大ガイドラインに準拠してもらうよう事前に伝え、当日も指導とサ

ポートを行う。

- 更衣室利用者が増えることが予想されるため、試合前は大学ごと利用時間帯を定め、東大の時間帯は最上級生が更衣室付近で、更衣室利用者が1人になっているか、更衣室が空くまで待機するものが密になっていないかを管理する。試合後は相手校を優先する。
- 素手でのボールへの接触を管理しきれないため、ボールの貸し出しは行わない。
- 雑談など試合時以外での相手校との接触は避ける。
- 握手やハイタッチは禁止とする。

②公式戦への参加について

原則として運営組織の講じる感染症対策に従い、自チームに関してはマスクの着用、各自での飲料の用意などの会場に応じた対策を講じる。

4) 活動再開決定後の流れについて

活動再開が承認され次第、以下に記載する流れに従って、感染症対策を徹底しながら順次活動を再開していく予定です。

I ,一部の部員による予行演習

再開が決まった段階で、活動開始前に駒場において練習前、練習中、練習後の対策の確認を主将、主務、COVID-19 責任者、スタッフ長の4名で行う。具体的には、朝の検温から、正門からグラウンドまでのルートの確認、用具の準備、時間差をつけての到着の確認(この日は1人ずつ時間をずらす)、練習中の決まりの確認、怪我人病人対応の確認、練習終了後の流れの確認を行う。

この日に、手洗い場での「30秒間の手洗い」の掲示、水飲み場で並ぶ人の間隔を開ける立ち位置のシールを貼るなどの措置をする。

8/1(土)に駒場学生支援課の方に出席していただき、試行的に練習を行う予定。当日は練習中と前後の感染防止策について確認する。

II,部員への感染症対策ミーティング

オンラインで、活動対策に関して講義し、理解を促す。

III,活動再開

(ア) 練習の再開について

2) ①『東京大学運動会新型コロナウイルス感染予防体制(案 20200621 改訂版)』および③東京大学運動会男子フィールドホッケー部における感染症対策 を万全に遂行する準備が整い、かつ上記4) I , II を完了した後に練習を再開する。

(イ) 練習試合（対外試合）の再開について

練習を再開した後、上で述べた感染症対策が徹底されていることを確認し、2-3) 練習試合・大

会等における感染症対策を万全に遂行する準備を整えた上で、大学・運動会に練習試合（対外試合）実施の許可を申請する。許可された場合、練習試合（対外試合）を再開する。公式戦への参加も大学・運動会に申請する。フェーズごとの方針は表 I を参照。

IV. 駒場第二グラウンド使用の際の他団体との連携

日常的に駒場第二グラウンドを使用する運動会は主に男子フィールドホッケー部、女子フィールドホッケー部、女子ラクロス部、男子ラクロス部があげられます。複数の団体が再開した場合に共通のグラウンド使用ルールが必要となるため男子フィールドホッケー部は各部の主将、主務、COVID-19責任者と連携し、第二グラウンドのルールを作成した。

5) 本活動ガイドラインの修正

この活動ガイドラインは感染拡大状況や、COVID-19 に対する新たな発見、治療法の確立により変更する必要があります。その際は以下の手順を踏んで、変更いたします。

- ① 東京大学運動会男子フィールドホッケー部主将を中心に改訂版を作成。
- ② 男子フィールドホッケー部監督および部長の承認を得る。
- ③ 大学、運動会に提出して承認を得る。
- ④ 改訂版のガイドラインに移行。

6) 感染症対策の実施の確認

以上の感染症対策が実施されていることを確認するための方策は再開が認められた後に大学、運動会と協議させていただきます。以下にいくつかの例を示させていただきます。

- ① 1日の活動が終わり次第、報告
- ② 週末に主将、主務、COVID-19 責任者と大学、運動会とでオンライン MTG を開き、対策ができるかを映像(普段から後学のため、練習は原則撮影している)とともに報告

<参考資料>

『GUIDELINES Safely Returning to Hockey in view of the COVID-19 pandemic』
http://fih.ch/media/13350104/fih_safetyguidelines_covid19_190520-02-compressed.pdf

JHA(日本ホッケー協会)による『ホッケー競技活動再開についての留意点』
https://data.hockey.or.jp/2020/jha/JHA_COVID-19-PTR_20200629.pdf?180392021

東京大学運動会新型コロナウィルス感染予防体制(案 20200621 改訂版)

『新型コロナウィルス感染症対策としての「UNIVAS 大学スポーツ活動再開ガイドライン」』
(2020.6.18 第 1 版)』
<https://www.univas.jp/uploads/2020/06/e1958ea00fdcf640b5e18bbf31eac511.pdf>